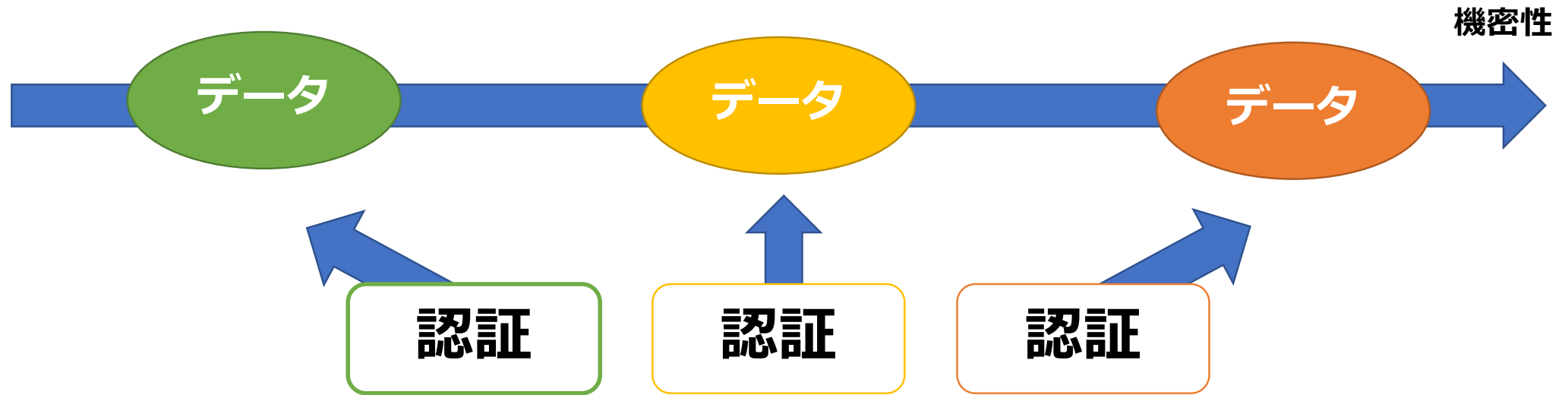


次世代学術研究プラットフォーム における認証

坂根 栄作

国立情報学研究所 学術認証推進室

アクセスするデータの特徴（機密性など）に応じて、異なる認証レベルが求められる

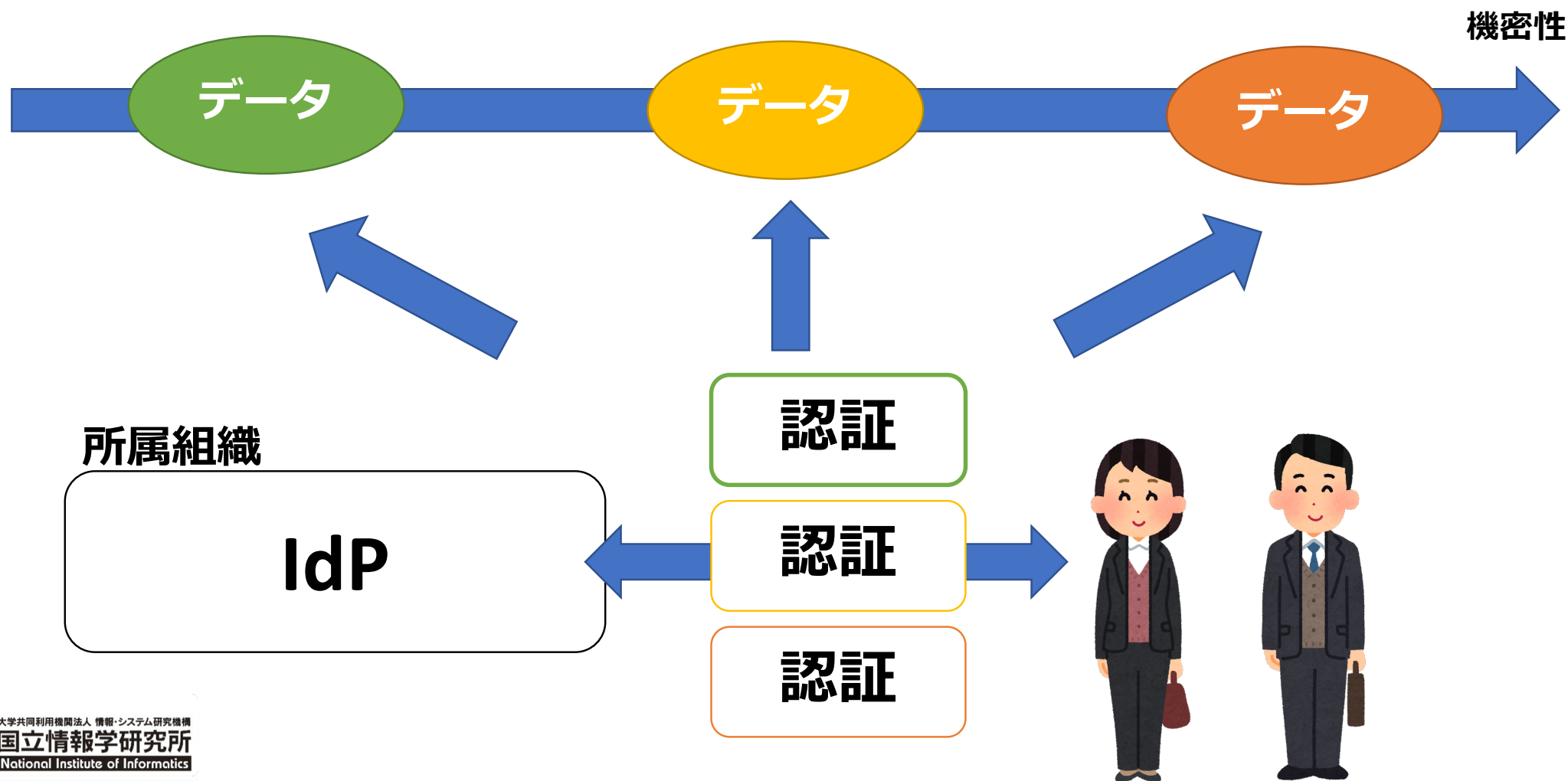


どちらの



どなた？

学術的研究・教育・学修活動における認証は、所属機関がベースとなるアイデンティティが基本



- 自組織の構成員の研究活動を支援したい
- これからも大学が IdP を持ち、構成員を認証することが求められる
- 課題
 - 学術活動に求められる本人確認と当人確認のレベル・方法の確立
 - 多要素認証によりアクセスするサービス（データ）に応じた認証強度
 - より柔軟な属性の管理機能（IdP, AP）
 - 国際標準に準拠し、また貢献できるよう体制を整備
 - IdP の運用形態の多様化、効率化による運用負荷の軽減
 - 単一な認証技術のみならず多様な認証技術の共存
- 学認がこれら研究開発・運用を推進し、大学・研究機関を支援してまいります